

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281
e-mail: blrhgy@extra.ocn.ne.jp URL: http://blrhgy.org/

新所長 就任あいさつ

皆さんは、^{こうもん}閘門の存在をご存じでしょうか。閘門は水位を調整し、船舶の通行を可能にするための構造物です。私たちの生活に深く根ざしており、運輸の効率化、地域経済の発展、環境への配慮など、さまざまな形で恩恵を与えている存在であり、地域の経済活動に欠かせない存在となっています。

兵庫県内にも尼崎市に「尼ロック」と呼ばれる尼崎閘門があります。

先週、大阪の「造幣局 桜の通り抜け」を横目に見ながら、小型船舶で通過した大阪の毛馬^{けま}閘門は、明治期の淀川改良工事に伴い1907（明治40）年に竣工したもので、淀川と大川の水位差（約3m）を調整する機能を有しています。約20分をかけて水位が調整されていく様子を体感し閘門を通過した後に抱いた感想は、現代社会が直面している人権問題の本質と相通ずるものがあるのではないかと思います。

閘門の象徴的な役割は、アクセス平等性を提供することにあります。水位の変化に応じて、船舶が通行できる道を提供する様子は、個々の人間が持つ潜在能力や価値が同等に尊重され、解放されるべきであるという全国水平社の理念と重なる部分があるようにも感じました。

まさに、閘門の本質は異なる水位の調整にあります。同様に当研究所の使命も社会の「見えない水位差」を可視化することにあるのではないのでしょうか。

鋼鉄の門が静かに水位を調整するように、現代社会の中で当研究所も絶え間ない微調整を続けていかなければならない必要性を、閘門は私に語りかけてくれました。新しい年度を迎え、引き続き皆様のお知恵とご協力を何卒賜りますよう、心からお願い申し上げます。人権という名の水平線へ向け、共に航海する船団の一員となれることを、深く感謝いたします。

今号のもくじ

- ▶ 1面… 新所長 就任あいさつ
- ▶ 2面… 2025年度人権教育実践講座のご案内
／2025年度人権セミナーのご案内
／事務局から
- ▶ 3面… 2025年度ひょうご人権総合講座のご案内
- ▶ 4面… 本の紹介
『戦争と平和 ある観察 増補新装版』

え、引き続き皆様のお知恵とご協力を何卒賜りますよう、心からお願い申し上げます。人権という名の水平線へ向け、共に航海する船団の一員となれることを、深く感謝いたします。

（一社）ひょうご部落解放・人権研究所
所長 則定 広人



2025年度人権教育実践講座のご案内

2025年度の人権教育実践講座のプログラムは以下のとおりです。パンフレットはゴールデンウィーク前に完成予定、お申込みは6月2日からの予定です。今年度は兵庫県教育委員会の方を講師にお招きし、ワークショップを開催します。そのほかの講座についても、より多くの先生方の実践に生かせるような内容となる予定です。ご参加をお待ちしております！

日にち	時間割	時間	講師	講座タイトル
8月6日(水)	1	10:00～11:45	内田龍史さん	部落問題 何を教えるか
	2	12:45～14:30	北川真児さん	部落差別のいま
	3	14:45～16:30	内田龍史さん 細田勉さん	都市部落と農村部落ーさまざまな部落のありようを知ろう
8月7日(木)	1	10:00～11:45	宮前千雅子さん	歴史教科書で教える部落問題 ～小学校を中心に～
	2・3	12:45～16:30	今川美幸さん 松尾恵宏さん	授業づくりについて考える～資料解説とワークショップをとおして～
8月19日(火)	2・3	12:45～16:30	坂本研二さん	授業づくりワークショップ
11月15日(土)	2・3	13:30～16:30	地元の方々	【フィールドワーク】 神戸市の被差別部落

※タイトル等は変更になる可能性があります。

主催：人権教育実践講座実行委員会

《2025年度人権セミナーのご案内》

第1回「差別に加担しないためのメディアリテラシー」

- 日時：2025年5月10日(土) 14:00～16:00
- 講師：阿久沢悦子さん(生活ニュースコモンズ記者)
- 場所：兵庫県立のじぎく会館 201号室(会場参加のみ・定員80人)



第1回セミナーのお申込みはこちらからどうぞ！

第2回「部落フェミニズム」(仮)

- 日時：2025年6月14日(土) 13:30～15:30
- 講師：宮前千雅子さん(関西大学人権問題研究室委嘱研究員)
石地かおるさん(自立生活センターリングリング障害者スタッフ)

事務局から

- 4月です。水稻の準備が始まります。まずは、田の水を管理するための用排水路の掃除です。約半年間、稲の生育のため水を管理します。今年も猛暑が予想され、心配です。(Ho)
- 老眼が進み、色々見えにくいです。丼物を食べる時、丼を手を持って食べようとすると、丼の中身がぼやけてよく見えません。箸でつかんだものもよく見えません。なんだか悲しいです。(ka)
- 研究所に関わる方々も執筆者に名を連ねる『部落フェミニズム』が3月に出版。差別とは何かを深く考えさせられる重層的でとても面白い本です。6月14日には人権セミナーでの対談もあります。ご参加お待ちしております。(H)
- 育休復帰後、いっぱいいっぱいな毎日ですが、職場のみなさんの理解があつてこそ、なんとかやっています。研究所のため今年度もがんばります。(ひ)

2025年度ひょうご人権総合講座のご案内

2025年度のひょうご人権総合講座の日程と講座テーマは以下のとおりです。パンフレットはゴールデンウィーク前に完成予定、お申込みは6月2日からの予定です。阪神・淡路大震災から30年の今年度は災害関連の講座も設定しました。たくさんの方々のご参加をお待ちしております！

■日程：2025年8月28日（木）～12月18日（木）全13日・26講座（フィールドワーク1講座含）

■テーマは以下のとおりです（2025年3月28日現在、変更する場合があります）

	テーマ	講座名	内容
1	人権	人権①	総論（国際人権、国内法）
2		人権②	マイクロアグレッション
3		人権③	現代的レイシズム（「逆差別」を考える）
4	部落問題	部落問題①	総論（同和対策事業含）
5		部落問題②	現状
6		部落問題③	歴史
7	在日外国人	在日外国人①	総論（在日コリアン、制度、差別禁止法等）
8		在日外国人②	教育
9		在日外国人③	労働
10	障害者	障害者①	総論
11		障害者②	自立生活の現状と歴史
12		障害者③	災害と障害者
13	ジェンダー	ジェンダー①	総論
14		ジェンダー②	トランスジェンダー差別
15		ジェンダー③	性暴力
16	子ども	子ども①	子どもの権利条約
17		子ども②	虐待、ヤングケアラー
18	犯罪被害者支援	犯罪被害者支援	
19	対人援助	対人援助	ワークショップ（伴走支援）
20	啓発・広報	啓発・広報	ワークショップ
21	フィールドワーク	フィールドワーク	震災（新長田）
22	病気と差別	病気と差別	HIV
23	人権のまちづくり	人権のまちづくり	災害ケースマネジメント
24	貧困	シングルマザーの貧困	
25	労働	労働と人権	
26	ワークショップ	ワークショップ	

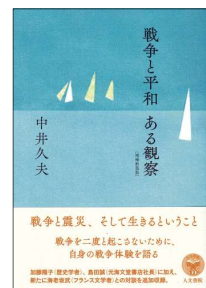
…災害関連の講座



『戦争と平和 ある観察 増補新装版』

中井久夫著、人文書院、2022 年 12 月、2,530 円(税込)

今年は何周年とか、毎年いろいろ言われるが、2025 年はどんな年だろうか。日露戦争終戦 120 年、昭和 100 年、第二次世界大戦終戦 80 年、日韓基本条約締結 60 年、同和对策審議会答申 50 年、阪神・淡路大震災の発災から 30 年、……きりがないのでこのへんでやめておこう。こういった出来事に関係のある本を紹介しようとあれこれ考えて、この本を選んだ。本書の内容をざっくり言うと、戦争と震災に関するエッセイと対談などである。日露戦争や昭和天皇、朝鮮、(少しだけだが)被差別部落のことも触れているので上に挙げた事柄に関することは(ちょっと強引だが)いちおう網羅している。



中井久夫(1934～2022)は精神科医で、阪神・淡路大震災のときの神戸大学医学部精神神経科教授であり、被災者の「心のケア」に尽力した。安克昌(1960～2000)^{あんかつまさ}をモデルにした NHK のドラマ「心の傷を癒すということ」(2020 年 1～2 月放送)が今年 1 月に再放送されていたが、主人公の恩師は中井がモデルである(近藤正臣が演じた)。また、統合失調症の専門家としても著名で、エッセイの執筆、詩の翻訳などの文業でも広く知られた人だ。

多くの著書・訳書を残した中井だが、そのなかから 1 冊だけ紹介するとして、本書が挙げられることはまずないだろう。本書所収の文章 9 本のうち中井が書いたのは「戦争と平和 ある観察」「災害対応の文化」「あとがき」の 3 本しかなく、残りは講演録、対談、シンポジウムを文章化したもの、語りおろしで、中井の文章を味わうのに向いていない。しかも講演録「戦争と個人史」は内容が散漫(面白い部分もあるが)、歴史家の加藤陽子との対談は加藤がしゃべりすぎだ。それに加藤が中井を大先生として扱いすぎていて鼻につく。

そういう本なのだがそれでも紹介するのは、表題作の「戦争と平和 ある観察」は今の時代に読む価値があると思ったからだ。

「戦争と平和 ある観察」は 2005 年初出。「観察」とあるように、世界平和のための処方箋であるとか、夢や希望が書かれているわけではない。科学者らしく冷徹に戦争と平和について語っている。中井は「私の基礎には、戦争と戦後民主主義の体験があり、憲法がある」(「あとがき」)と書いている。その上で「戦争という人類史以来の人災の一端でも何とか理解しよう」として「観察」したのが、本エッセイである。

20 年前に書かれたものだが、ウクライナ戦争やイスラエル・パレスチナ紛争の現状に符合することが多い。略奪や虐殺の背景、平和を維持することの困難さについて冷静に書いている。このエッセイを読むと日本や世界の今後が多難であることを思い知らされ暗澹とするが、目を背けていても何も変わらない。

また、中井は戦争体験を語り継ぐことについて、次のように述べている。「平和運動においても語り継がれる大部分は実は「戦争体験」である。(中略)戦争体験は繰り返し語られるうちに陳腐化を避けようとして一方では「忠臣蔵」の美学に近づき、一方ではダンテの『新曲・地獄篇』の酸鼻に近づく。戦争を知らない人が耳を傾けるためには単純化と極端化と物語化は避けがたい」。戦後 80 年のいま、肝に銘じておきたいことだ。戦争という複雑な事象を単純化、極端化、物語化する力が常に働くなかで、このエッセイはそれに抗する助けになることだろう。(Ka)

